参考
（当日配布資料）

事前に聴取した意見の整理

第１章　はじめに

第２章　富田林市の文化芸術を取り巻く現状

・5 ページ、当協議会～は主語としかおかしいのではないか？

第３章　将来像と基本方針

１．将来像

・ビジョンが理想論になっており、本当に実現できるのか。実現するには経済の視点が大事であり、例えば予算が増加されるのか、予算を増加させるための地域経済の活性化に寄与しているのかといった視点があったほうが良い。
・「郷土愛」の視点がない。将来像を実現していくためには、郷土愛を育てることが大事ではないか。
・「ふれる」「つなげる」「そだてる」は良いが、行政目線である。そもそも一般の人は「文化芸術」と捉えていないで文化芸術活動をしていることも多い。このため、「たき火」を比喩として説明するのは分かりやすく、良い。
・なぜたき火なのか。ストレートに表現した方が良いのではないか。また、7 ページを読んでもピンと来なかった。たき火の印象が強く（唐突に捉えた）、たき火の説明に見えた（たき火＝文化芸術）

２．基本方針

・「ふれる」「つなげる」「そだてる」の主語は誰か。「ふれる」は市民、「つなげる」は演者、「そだてる」は行政や地域が主語だとすれば、「つなげる」について、演者がアクションしたくなるような価値が見えない。例えば、文化芸術を通じてつながると、活動の幅が広がる等。そのような価値は、もっと異業種とつながったほうが生まれるのではないか。また、文化芸術活動を持続させるためには、文化芸術に関心のない層も顧客にしていくマーケティングの考えも必要であり、顧客を広げていく喜びを演者にもっと理解してもらえるようなことも必要ではないか。
・8 ページについて、ふれるは分かるが、「つなげる」「そだてる」は市民を削除したほうが良いのではないか。市民が前面に出ているが、市の役割を前に出したほうが良いのではないか。芸術文化は市民が自主的に取り組むものだが、プランにしていくというのは、市が後押しするもの。それを考えると、市が何をするかが見えたほうが良いのではないか。もしくは、市民の役割や市の役割を後で記載したほうが良い。8 ページは主語が市民で、10 ページ以降は主語が市になっているようにも見え、混乱する。特に「つなげる」は、市民同士でつなげていくのは難しい。市のバックアップが必要だ。
・(3)について、最初の文章の意味が分かりにくい。また、すばるホールや公民館以外でもやっていくのか。これまでやってきたことと何が違うのか。

・9 ページについて、「そだてる」のところで、「富田林ならでは」とあるが、どのようなイメージか。地域性に特化したイメージを持ってしまうが、お祭り等をメインに捉えられないか。

第４章　主な施策・取り組み

・全体的に主語が入っていても良いのではないか。

１．市民が文化芸術にふれる

・まちかどミュージアムは個人的にはもっとあれば良い。出掛けなくても、普段暮らしているところに文化芸術があるのは大きい。まちかどミュージアムが 11 箇所あるのは多いのか少ないのか分からないが、できればもっと増やしてもらいたく、10 年後ということもあり、目標数値があると良い。まちかどミュージアムで作品を出したり、アウトリーチ活動もあるが、オブジェのようなものがまちなかにあると（予算的には難しいかもしれないが）シンボル的になり、良いのではないか。まちなかをよく見れば、そういうものがあったりもするが、もっと増えると良い。
・「ふれる」前に「知る」ことが重要だ。富田林市の文化資源について、資料館を整備する等、情報収集できる機能が必要ではないか。例えば河内音頭も本来は富田林市の話だが、現状は八尾市のものになっている。

２．市民が文化芸術をつなげる

・市民が文化に「ふれる」だけでなく、よそ者が富田林市の文化芸術に「ふれる」ことで富田林の新たな価値に気づくことも大事であり、それが「観光」である。観光の視点を入れることで、富田林ならではのとがったものが見えてくるのではないか。
・13 ページ：文化芸術を活用した連携・協働事例について、子育てとお絵描きをつなげるような発想を、もっと市が考えて欲しい。庁内の連携の視点が大切だ。市役所の中で連携していく視点が必要だ。伊丹市では、健康づくりに取り組み、浮いた予算を図書の購入に回している。今は各課で予算の取り合いになっていると思うが、連携しながらうまく取り組んではどうか。「つながる」は市役所の中でも取り組んで欲しい。
・14 ページ：いきなりすばるホールと出てくるが、主語はすばるホールなのか。
・15 ページ：市民文化祭や団体の話が出ているが、主語は誰か。文化団体が取り組むのか、それとも市が取り組むのか。市が取り組むことが分かるようにして欲しい。また、学校や企業と具体的にどう連携していくかが見えていない。これから考えていくのか。
・16 ページ：取り組みイメージについて、市がやることを明文化して欲しい。また、社会的価値について、富田林市でも多文化共生の推進指針がある。地域で人が尊重されて、対等な立場であることを寄与するような表現として、多文化共生を入れて欲しい。また、「人権」というキーワードも入れてもらいたい。
・17 ページ：タイトルは文化施設のバリアフリー化とあるが、内容にはソフト面も入っている。文化芸術のバリアフリー化のほうが良いのではないか。また、コラムの中で、最後に「今こそアートの力で～」とあるが、言い過ぎではないか。「自他を越える想像力」と

いうのも理解が難しい。あくまでアートは一部ではないか。

３．市民が文化芸術をそだてる

・文化団体について、それぞれの団体が趣味の領域を出て、子どもたちに継承していく視点が必要だ。そのために横のつながりをつくる必要がある。
・前回の委員会でも意見があったが、子どもたちは部活動を文化系と体育会系に分けたり、文化系の活動を「恥ずかしい」と感じたりしている。そうではなく、まずは学校教育の中で文化芸術に触れていくことが需要であり、それによって身につくものがある。
・18 ページ：文化振興基金について、これまで使える内容が狭かった。周年事業の講師謝金等では使えたが、文化芸術活動を支援するために基金を活用するのは良い。基金を取り崩してでも対応できると良い。
・19 ページ:市内で活動されているアーティストや文化団体と子どもたちをつなげるのか。過去に藤原歌劇団に学校でカルメンを演じてもらったが、本物に触れてもらうのは良かった。市で活動される芸術家にとどまらず、もう少し幅を広げても良いのではないか。
・習い事の支援等は良いが、ばらまきにならないよう、方法を考えてはどうか。

第５章　リーディングプロジェクト

・3 つのプロジェクトは良いが、富田林ならではのものが見えない。3 つのプロジェクトは、富田林以外でも通用しそうだ。富田林のアイデンティティや、オンリーワンなものを打ち出せないか。例えば寺内町等がアイデンティティであれば、生活と観光の共生を文化芸術で取り組むことが重要であり、それこそが持続可能な社会づくりにつながる。今までの延長線上の取組だけでなく、新しいエッセンスを入れてはどうか。
・22 ページ：多文化共生と人権を入れて欲しい。

第６章　ビジョンの推進に向けて

・第 4 章・第 5 章では、すばるホール以外の公民館やまちなかの話があり、市民が主役と捉えていたが、体制ではすばるホールが中心のように見える。
・ビジョンは市が取り組むことだが、主語が市ということが見えない。また、推進体制は前にあっても良いのではないか。誰が取り組むビジョンなのかが分かったほうが良い。
・連携という言葉が出てくるが、協働という言葉がない。10 年後を考えると、協働という言葉のほうが良いのではないか。